

日本原子力学会 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会
第85回廃止措置分科会（R3SC） 議事録

1. 日時：2023年8月8日（木） 10:00-11:40
2. 場所：Web会議（Webex）
3. 出席者：岡本主査、目黒副主査、杉山幹事、工藤、田中、湊（仲田代理出席）、平井、青井、生駒、西村、見上、田村、鳥居、山本、石原、高橋、小山（欠席：中村、佐藤、黒川）（敬称略）
4. 配布資料
 - ① R3SC-85-1 人事案件
 - ② R3SC-85-2 第84回廃止措置分科会議事録（案）
 - ③ R3SC-85-3-1（その1）耐震安全技術レポート本文（素案）コメント対応表
R3SC-85-3-1（その2）耐震安全技術レポート本文（素案）コメント対応表
R3SC-85-3-2 耐震安全技術レポート本文（素案）新旧比較表
R3SC-85-3-3 耐震安全技術レポート本文（素案）完本版
 - ④ R3SC-85-4 「原子力施設の廃止措置の基本安全基準：2022」の「まえがき」3役コメント対応前後比較表
 - ⑤ R3SC-85-5 「実用発電用原子炉施設の計画策定基準：2022」の「まえがき」3役コメント対応前後比較表
 - ⑥ R3SC-85-6 「発電用原子炉施設の廃止措置計画における安全評価基準：2022」「まえがき」
5. 議事
 - (1) 一般事項
 - ① 17/20名の出席により分科会成立を確認した。
 - ② 人事案件 今回は無し
 - ③ 次回の分科会は、9月12日 10:00～12:00（オンライン開催）
 - (2) 前回議事録確認 [R3SC-85-2]
特にコメントなし
 - (3) 耐震安全技術レポート本文（素案） [R3SC-85-3]
 - 担当の委員から、R3SC-85-3-1, -2, -3に基づき耐震安全技術レポートのコメント対応について説明があった。
 - 副主査から、詳細を確認してコメントするとされた。
 - 委員から、コメントとしては、耐震クラス、安全重要度ランクについて、現行標準を受けてのレポートであれば、どこかに耐震重要度分類という言葉があった方がよいように思うが項目にない。言葉の使い方の意味で再度整理してはどうかという意見があった。
この意見に対し主査から、用語定義を追加した方が分かりやすいかもしれない

い。必ずしも標準と同じ書き方をする必要はないが、検討してほしいとコメントがされた。

この主査のコメントに対して、発言の委員から、当面は今回の整理で作業を進め、いずれかの段階で用語の定義や解説等に記載することとするのがよいと思うと発言があった。

- 主査から、検討中の事故時線量評価試算例に関して、炉内構造物はグリーンハウス等設置しての工事は当たり前なので、最確評価の考え方を取り入れてほしい。グレーデッドアプローチは最確評価をベースに判断していかなければならない。過度の安全余裕は工事を遅らせる原因となり、リスク過多の状態を引き延ばすことになり、結果的に非安全側になることがあるとコメントがあった。
- 担当の委員から、建屋の耐震クラス再評価の評価フロー図記載案に関して、今回提示案と前回席上コメントを反映した案との比較を画面で説明し、3つ目のひし形を削除する形を採用することを説明があった。
- 主査から、今回資料及び説明を踏まえ、8月25日締め切りで、幹事まで再コメントをお願いすると発言があった。（次回9月12日の約2週間前）

- (4) 「原子力施設の廃止措置の基本安全基準：2022」の「まえがき」[R3SC-85-4]、「発電用原子炉施設の廃止措置計画策定基準：2022」の「まえがき」[R3SC-85-5]、「発電用原子炉施設の廃止措置計画における安全評価基準：2022」の「まえがき」[R3SC-85-6]

- 主査から、三役（主査・副主査・幹事）で明日中に最終確認し、標準の担当の委員2名と感じに送付するように発言があった。

(5) 倫理教育

- 廃止措置について倫理のあるべき姿について議論した。
- 幹事から、倫理面に加えて、コンプライアンスの遵守も必要である旨、専門部会でコメントがあった。
- 主査から、組織に流されるようなことがあってはならない。廃止措置では過度な安全を追求することは地元への負担等をかけることになる。リスクに応じた最適な安全確保の考え方になるように、標準策定等を進めていく必要があるとコメントがあった。
- 主査から、ビデオを視聴していない委員は必ず視聴すること、並びに、倫理教育を受講していない委員のフォローを幹事に要請がなされた。

以上